身体障害者に理解を

石本七夫(自営業)　大形本町　36歳

私は仕事のため週二回ずつ養護学校へ行っていますが不自由な体にもめげず毎日頑張って生きている姿にいつも感銘させられています。新潟市が身体障害者福祉モデル都市になり三ヶ年計画で強力な事業を推進していくことは誠に喜ばしい限りです。

そして県ではミニコロニーを県内十か所に建設する構想を打ち出したという心温まるニュースもある。私の「福祉への提言」の第一番は施設の絶対量の不足です。

五年前まで、くらしていた仙台では、車椅子に乗った人、白い杖をついた盲人を、町の中のどこでも、みつけることが、出来ました。車椅子に乗って買い物に来た人に、店の前まで出て来て、接している店の人などを、みているだけで、心がなごんできたものです。

新潟へ来たら、車椅子で、町の中に出ている人を、あまりみかけたことがありません。新潟には、そういう人がいないわけでは、ないのに、どうしてだろうか。車椅子でも、出かけられる施設、盲人のための点字ブロック、そういうものは、行政の上で、一番はじめに、なされなければならないことだと思います。

そして、身障者に対して、世の人々全てが、自分がそうなった時のことを思って、あたたかい態度で、接することが、一番の福祉であると思います。

車椅子で外出できる街に

鹿股由美子(主婦)　新和　34歳

確保はもちろんのことですがそれよりもっと身障者を温く理解してあげることが先だと思うので。

体の不自由さにムチ打って涙ぐましい努力をして技術を身につけながら社会に受け入れられない現状にはあまりにも気の毒です。私達常人は本人のにそっと手を貸して階段や横断歩道を安心して渡してやることぐらい社会の当然の役割であろうと思います。

福祉モデル都市に恥じない市民になるには身障者に対する一層の理解を深めることを私は声を大にして訴えたいのです。

今の世では物質面よりむしろ精神面にこそ心を注ぎ身体障害者を励ますことだと思います。

わたしたちの意見

紙上討論

福祉への提言

明生園の造花造りの指導

特別割引価格の制定を

土田茂夫(無職)　春日町西

市がこのたび身障者福祉モデル都市として指定された事は、身障者福祉に限らず、社会福祉全般に平素から並々ならぬ熱意を示している事を高く評価された結果と思う。この意味で敬意を表します。しかしながらお福祉の道は遠く、課題も問題も多々含んでいると思う。あせらず目標を定めて、一つずつ解決して行くべきである。まず第一に老人、身障者福祉は経済問題優先である。狂乱的インフレの今日、収入の限定された弱者世帯にとって物価高は最大の敵。毎日の生活の苦労で、他の事など考える余地がない。そこで私は提案します。せめて日常生活物資に対し、例えば野菜、魚、豆類、ミソ、醤油等福祉協力店をつのり、かつ弱者世帯に利用券を発行、これに協力品を指定して一般販売価格の一、二割引くらいで販売、市は福祉予算をもってこれを補てんするかあるいは協力店の経費の一部とみなし市民税を軽減するなど行政的配慮をしてもらいたい。まず手始めに地場産業のミソ、しょう油に限定してもよい。横浜では地域的格差のはなはだしかった野菜の価格を協力店の力によって解消したという。

政府も値上げする米についても弱者世帯へは特別割引価格で販売するという。気運は盛上っている。市も勇断をもって行政的処置をとって、私の案を実行しては如何。かくてこそ福祉モデル都市として脚光をあびるだろう。

市民総身障者の観点を

川辺キヨ(無職)　忠蔵町　45歳

高度福祉国家とよく聞く言葉であるが、平和の代名詞とも受取れ、今後ともなおざりにできない通切さを感ずる。特に積極的な対策は基本法制定の意義と実態の徹底に云う事で、施設の参観などから得た知識を基に身障者の発保護に当るべきである。身障者という既成の事実には応待に応分の協力を心掛ける事である。

老人や身障者が、法の下で認められた被護に異常なほどの自己主張や当然の権利を主張出来る事はまれであり、またそれに勤ずる事も容易でないのだから、その人達が集団して特に環境に抵抗を感じない為の職業訓練所の設置と職業訓練等、また保護器具のあっせん修理方法などは丁寧に指導して積極的に必要事項を優先して満して上げたい。また事業計画に際し、市民総身障者と云う観点で進めて貰いたい。というのは例えば、都市造りの面で道幅が狭く交通標式が見辛く煩雑。そのため信号無視が常態化している事や、自家用車がはんらんしていてとの道へ出ても安全な歩行は望めない。駐車を一定して車道歩道の区分ができたら良いと思う。

ゆったりと思慮充分な静かな街造りが、何より身障者の健全な生活を補助する役立つのではあるまいか。

何時の時代でも強い者が弱い者をいたわり励まし、豊かで正しい生活を守っていくことは、互いに協力し合って強力でありたいと、法の力にすがってでもやり遂げなければならない。

次回は

私の生活と音楽

クラシック、ジャズ、ラテン々々あります。

邦楽……ステレオを聞いたり、音楽へと題して、市民の皆さん生音楽を鑑賞したり。さらには積極的に自分で演奏する。歌にしても、オラが演歌まで、人の好みは千差万別。

喜びや悲しみの生活感情を歌にたくしたり、音楽に哲学する人まで。およそ人間の生活から音楽は切り離せません。

新潟市も、「スポーツと音楽都市」を宣言して、毎年中央交響楽を招いたり、市のサークル活動に指導員を派遣したり、さまざまな施策を行なっており市の音楽行事に参加する人も年々増加の一途をたどっています。

そこで、次回は「私の生活と音楽」と題して、市民の皆さんの御意見を募集します。

市への要望や市民への呼びかけに限らず、自由な立場での音楽論を期待します。

応募要領　四百字詰の原稿用紙一枚半（六百字程度）にまとめ住所・氏名・年齢・職業それに連絡電話番号も必ず明記して市広報課「わたしたちの意見」係（〒九五一　市内西堀通六へ、十一月十日までにお送りください。無記名の原稿は掲載しません。掲載分には薄謝進呈。

心豊かな子を育てること

稲場みち子(主婦)　中山居前二　24歳

皆が本気でなれたら、障害を持たれた人達に、精神の子供達に、老人の皆さんに、どうしてあげたら生きがいのある、明るい生活を送ってもらえるか、おのずとわかってくるのではないか、決して家の中のお荷物、社会の邪魔者であってはならない。

一人の人間として他人の人格をいとおしみ、本当の愛と同情の力をよせることができるようになれたら、深い思いやりの心を自然のうちに持てるようになれたら……。

老人身障者対策への提案

笹木勇治郎(在宅療養者)　西受北町　56歳

老人対策　一、経済的基盤確立とする。雇用事業所への税制優遇のため年金の増額はもちろんだが「市福祉基金」の創設を望む。市民個人あるいは各階層の収入に応じての拠出金や諸興行の利益金の一部、有志の寄附金などを財源とする。年金・扶助金の支給直接本人の手へ。

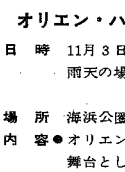
二、孤独感を取り除くため家庭の定期的訪問は言うに及ばず家庭奉仕員・警察官・宗教医療関係者の訪問、次に隣の考人を参加して「お茶のみ友達会」を作る。小・中学校の運動会・文化祭への招待。

三、生きがい老後生活のために働ける人には職場のあっせん。趣味の会の開催、老人かくし芸、運動会の開催、対話集会の開催

四、健康保持のため老人手帳の交付体力・健康記録・定期検診住宅施設の清掃改善、観光地・温泉地への招待

五、老人宅に電話架設および緊急時を考えて枕元ボタン一つで近隣に通報するベルの取付け

身障者対策　身障者雇用促進法による市の条例を制定して義務制の小・中の普通学級への編入、障害児母の会の結成促進　以上モデル都市としてすでに計画されている諸施策として併行して実施していただきたいものの一部を提案しましたがこれらの実施に当っては老人の身障者の立場に立っての人間的暖かい心ゆりを基盤にしていただきたい。また施策の実行には経済性と市民の協力が必要になるのでこれらのP・Rにも力を入れていただきたい。



ひとり者老人同志の結婚の仲介。

トレセンだより

〈入所日〉

1、6、8、11、15、20、25、29日―女子はこれ以外の日

時間は午後4時と6時の2回指導

〈体力相談〉

9日、16日

バスケットボールのつどい

〈11月の練習日程〉

2日、9日、30日

午後6後～同9時

"ホリデー・イン・新潟"

オリエン・ハイキングのつどい

日時　11月3日（日）　午前10時から雨天の場合は4日

場所　海浜公園

内容
- オリエン・ハイキング―市内を舞台としたミニオリエンテーリング、宝さがしなど。景品もいろいろ。昼食持参でどうぞ。
- 掘出し市（蚤の市）
- 一坪店主―手造り品即売
- 笑わぬ超人間を笑わせよう―もし笑わせたら賞金10万円